ー調査成果のまとめー

今回の調査によって、こうもり塚古墳の墳丘は二段築成で、現存墳長は約97mとなること、墳丘には埴輪（はにわ）や葺石（ふきいし）などの外表施設が伴わないことが明らかになりました。墳丘構造については、前方部の一段目等が元の地形を削ることで造り出されていることや、墳丘の盛り土が場所により様々な方法で行われており、特に後円部は複雑な工程で土が盛られていることが明らかになりました。さらに、墳丘の周囲には幅数十ｍにわたって外縁部が設けられていた可能性があることがわかりました。これは、古墳の築造当時の姿を考える上で大きな成果と言えます。

当センターでは、今回得られた情報を基に、来年度も引き続きこうもり塚古墳の発掘調査を計画しておりますので、今後の成果にご期待下さい。

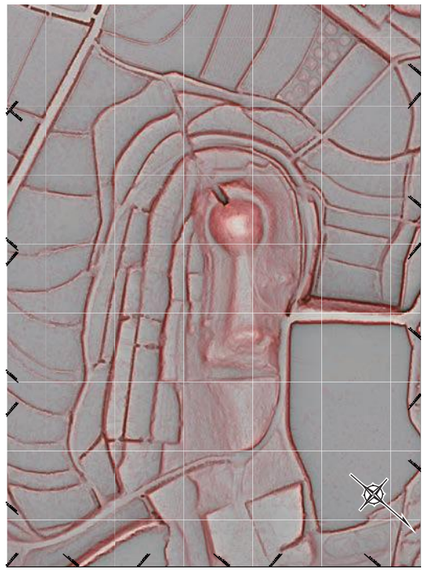
ーその他の調査についてー

岡山県古代吉備文化財センターでは、発掘調査以外にも様々な方法でこうもり塚古墳の調査を進めています。

左下側の図は、航空レーザー測量で作成した墳丘の立体図です。航空レーザー測量とは、航空機から発射したレーザー光の反射データを基に詳細な地形図を作成する技術で、地形の情報を３次元でとらえることができるため、古墳の特徴をより詳細に把握することができます。

右下側の図は、三次元レーザー測量とデジタル写真を組み合わせて作成した、こうもり塚古墳の石室の立体図です。三次元のデータを作成することで、石室の特徴を立体的に捉えることができる上、写真のデータを組み合わせることで、図面で表現することが難しい石材の質感や色まで再現することができます。

これらの調査成果は、「史跡こうもり塚古墳総合調査報告書」として、発掘調査の成果と合わせて公開する予定です。



航空レーザー測量によるこうもり塚古墳の立体図

こうもり塚古墳石室内部の立体図

※引用・転載はお控え下さい

国指定史跡

こうもり塚古墳　現地説明会資料

主催：岡山県古代吉備文化財センター
日程：令和３年11月23日（火）
場所：総社市上林（史跡こうもり塚古墳）

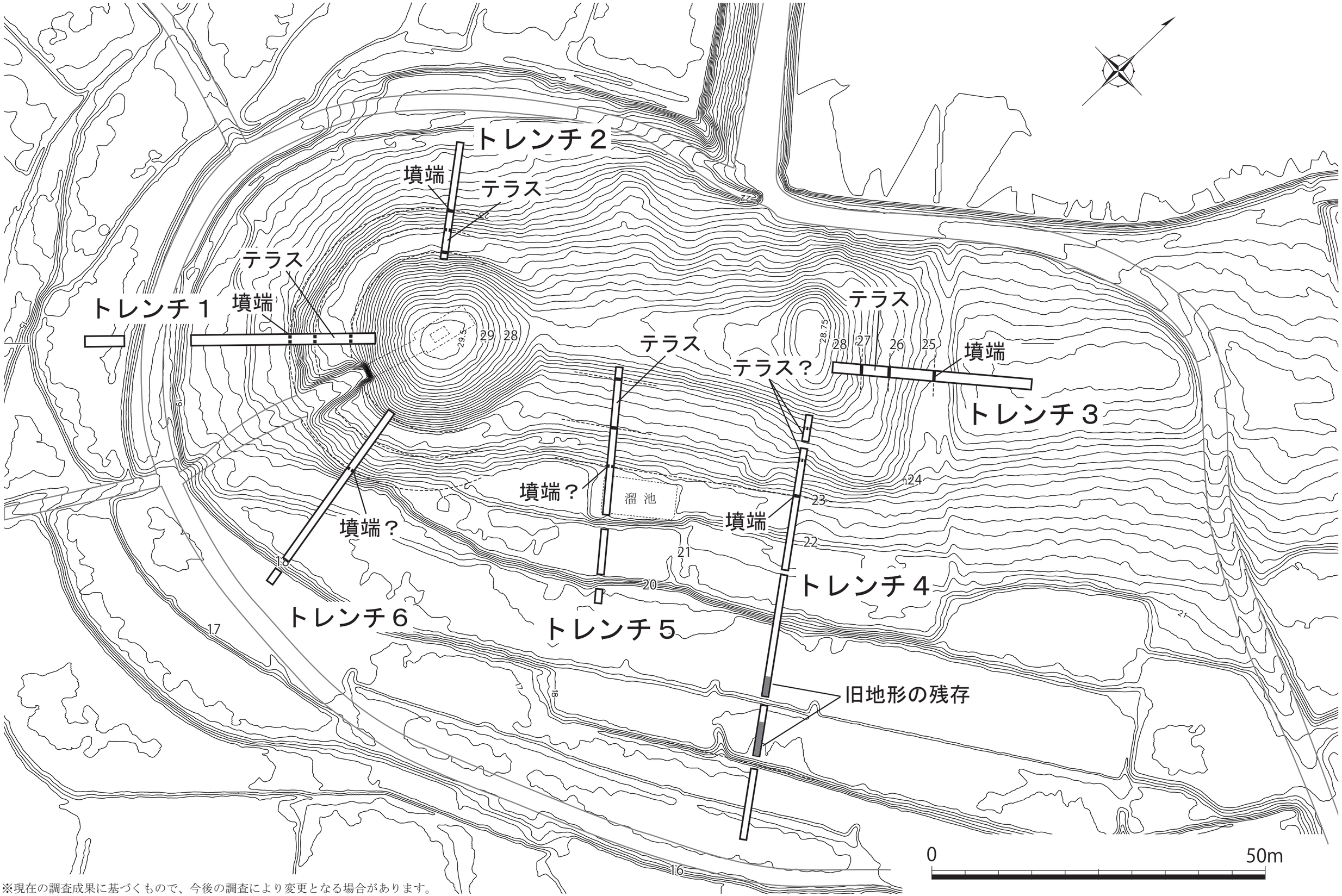
岡山県古代吉備文化財センターは、「吉備路（きびじ）の歴史遺産」魅力発信事業に伴い、令和３年９月から史跡こうもり塚古墳の発掘調査を行っています。

こうもり塚古墳は、６世紀後半に築かれた全長約100ｍの前方後円墳です。墳丘の大きさは古墳時代後期（６世紀）では県内最大で、同時期の中四国・九州地域の古墳と比較しても最大級の規模を誇ります。また、後円部には全国でも屈指の横穴式石室（全長19.4ｍ）が構築されており、これらの重要性から、昭和43（1968）年に国の史跡に指定されています。

こうもり塚古墳では、過去に２回の発掘調査が行われていますが（昭和42（1967）年・昭和53（1978）年）、どちらも横穴式石室の調査で、墳丘の正確な規模や構造については多くの謎が残されたままでした。この課題を解決すべく、今回は古墳の周囲に６か所の調査区（トレンチ）を設定して発掘調査を行いました。

本日は、発掘によって初めて明らかになったこうもり塚古墳の姿を、皆様にご説明いたします。

こうもり塚古墳と吉備路周辺の遺跡分布図



※現在の調査成果に基づくもので、今後の調査により変更となる場合があります。

こうもり塚古墳墳丘測量図及び調査区配置図（500 分の１）